

臓器移植推進 協会だより

第27号

(発行者)

公益財団法人栃木県臓器移植推進協会
理事長 太田 照 男

(編集責任者)

企画委員長 村 山 直 樹

(事務局)

宇都宮市塙田1丁目1番20号
栃木県保健福祉部健康増進課内
TEL 028-623-3086
FAX 028-623-3920
<http://www1a.biglobe.ne.jp/tochi-zo/>

「巻 頭 言」



公益財団法人栃木県臓器移植推進協会
理事長 太 田 照 男

臓器移植推進協会だより第27号（平成28年度版）の発刊にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

関係者の皆様には日頃より当協会の事業運営に関しまして、格段の御指導御鞭撻を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、平成22年7月の「改正臓器移植法」の全面施行後、これまでに全国では、423例（平成28年12月末現在）の脳死下での臓器提供例が報告され、本県においても11件の脳死下での臓器提供と2件の心停止後の提供があるなど、我が国における移植医療が着実に推進されつつあると考えております。

一方で、県内の腎臓移植希望者は昨年12月末現在で190名と依然として多くの方々が臓器移植を待ち望んでいる状況にあり、また、臓器提供の事例の大半は本人の書面での意思表示がなく、御家族が提供を承諾されたものであります。このようなことから、今後とも、県民への臓器移植制度の理解を深める普及啓発活動をより一層充実させる必要があると考えているところで

当協会では、10月の臓器移植普及推進月間には県、医療機関、患者団体、ライオンズクラブなどの御協力をいただき、県内3箇所恒例の街頭キャンペーンを展開したほか、臓器移植を待つ患者さんに希望の光を届けるとともに県民が臓器移植について考えるきっかけをつくるために宇都宮タワーを臓器移植のシンボルカラー

であるグリーン色でライトアップをしました。

その他にも、マスメディアを利用した啓発活動や、臓器移植普及推進月間をPRするために県庁壁面に懸垂幕の掲示、プロスポーツチームとのオリジナリティ豊かな共同企画を充実させるなど、県民各層の皆様へ、臓器移植に関する理解を深めていただくため、各種事業を積極的に展開して参りました。

更には、小・中学生や高校生などに移植医療を通じて命の尊さを学んでいただくための「命の学習会」事業では、実施した各学校のたくさんの児童、生徒、保護者の皆様から素晴らしい反響をいただいております。

このような各種普及啓発事業を通じて、徐々にではありますが臓器移植に対する理解が広がってきているものと思われま

す。当協会も、公益財団法人に移行して5年目を迎えたところであります。今後とも公益財団法人として、普及啓発活動の充実、更には移植医療の円滑な実施のための事業展開を幅広く実施し、より公益性の高い法人として発展して参る所存であります。

結びに、医療機関をはじめとする関係機関、団体の皆様はもとより、県民の皆様には臓器移植の推進に向けて、更なる御理解と御支援を賜りますようお願いを申し上げ御挨拶とさせていただきます。

臓器移植推進会議（企画委員会）活動

委員長 村山直樹（協会理事）

本会議は、臓器移植推進事業の一層の充実を図ることを目的に、昨年度、従来の企画委員会を拡充し、栃木県臓器移植推進会議とし、今年度、第2回目を開催いたしました。

栃木県臓器移植推進事業の現況や今後の取組について、各委員からの様々な意見を元に、平成28年度事業の実施状況や平成29年度の事業計画案について、具体的な協議を行いました。

平成28年度の意思表示カード普及啓発事業では、恒例の「街頭キャンペーン」を県、県透析医会、腎友会、ライオンズクラブに協力をいただき、県南（佐野市）・県央（宇都宮市）・県北（那須塩原市）の3地区で実施したことや、移植医療への理解と意思表示の普及啓発を目的に、県都のシンボルである宇都宮タワーをグリーン色でライトアップをいたしました。

また、臓器移植への理解を深めるため、命の大切さについて小・中・高校生を対象とした講座「命の学習会」を積極的に展開し、これまでに5校で開催していることや、人気プロスポーツチーム「リンク栃木ブレックス」との共同企画事業として、有名選手等を「栃木県臓器移植推進サポーター」に任命し、普及啓発活動の一役を担っていただいていること、更に、1～2月に開催される試合会場において、オリジナル意思表示カードを入場観戦者に配布することなどが報告されました。

コーディネート活動奨励事業では、院内移植コーディネーターの皆さんに対し、円滑な情報連絡・相談体制等の構築のための研修を既に2回開催し、また2月にも開催が予定されていることが報告されました。

次に、平成29年度の事業計画については、「臓器移植普及推進街頭キャンペーン」や「命の学習会」などの従来からの普及啓発事業の着実な実施、また、プロスポーツチームとの共同企画の継続や、日本臓器移植ネットワーク、栃木県等との連携を強化し、各般の事業を幅広く実施するとともに、県の「とちぎ健康21プラン（2期計画）」に基づき、糖尿病性腎症予防のための取り組みや、マスメディアの効果的な活用などについて協議いたしました。

透析委員会活動

委員長 目黒輝雄（協会理事）

透析委員会では、県内の全ての医療機関の協力を得て、毎年12月末日時点での「人工透析医療実態調査」と、新たに透析療法を導入された患者さんの状況について、発生の都度、患者匿名により医療機関から報告していただく「透析導入時調査」を行っています。

両調査の結果につきましては、それぞれ分析の上統計処理したものを公表し、行政の腎不全対策や、透析医療の質の向上に役立っています。

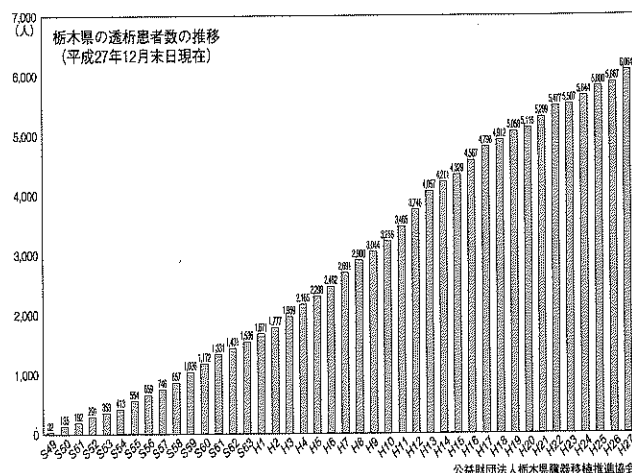
今年度は平成28年9月29日（木）に透析委員会を開催し、平成27年分の調査結果の分析と、平成28年分の調査実施計画の策定を行いました。

平成27年分の調査結果につきましては、その一部（透析医療機関と透析患者の動向、腎臓移植の現況等）を本紙に別掲しておりますが、全透析患者数は平成26年より197人増加し、原疾患別の透析患者数は、糖尿病性腎症が43.4%、慢性糸球体腎炎（ネフローゼを含む）が31.4%と多くを占めています。また、1年間の透析導入患者数も39人増加の752人でした。

糖尿病は、多くの場合、早期発見と継続治療により、腎症、腎不全への進行を防げる病気です。糖尿病といわれたら、しっかり根気よく治療を続けることが肝要です。

各透析医療機関におかれましては、実態調査の趣旨をご理解いただき、記入上の注意等をご確認の上、記入もれや誤記入のないよう、よろしくご協力をお願いしたいと思います。

今後とも、透析委員会の活動にご理解とご協力をお願いします。



できごと

臓器移植普及推進月間における「街頭キャンペーン」の実施

当協会の普及啓発活動の主な事業の一つであります「街頭キャンペーン」を、栃木県、透析医療機関、栃木県腎友会、ライオンズクラブ等関係団体に協力をいただき、10月の臓器移植普及推進月間に併せて、県内3か所で実施しました。

本県オリジナルの「臓器提供意思表示カード付きリーフレット」に啓発グッズ（エコバッグ）をセットにしたものの配布や、血圧測定を含む医療生活相談、臓器移植に関する意識調査（アンケート調査）等を実施しました。

【県南地区】 佐野市・イオンモール佐野新都市

10月1日（土）、屋内でのキャンペーンですが、好天に恵まれ、朝早くから多くの買い物客が来場したため、例年より多くの方々に臓器移植普及推進の啓発活動ができました。



【県央地区】 宇都宮市・オリオン通りイベント広場

10月9日（日）、朝からあいにくの小雨のため、開催場所をバンパひろばからアーケードのある「オリオン通りイベント広場」に変更しての開催となりました。天候の影響からか通行人はまばらでありましたが、開催セレモニー時などは、多くの方々が足を止めてくださいました。

開催セレモニーでは、主催者、関係団体の代表者のあいさつ、栃木県臓器移植推進サポーターとして活躍いただいている「リンク栃木ブレックス」の専属チアリーダー「プレクシー」のYURI KOさんから決意表明をいただきました。

キャンペーンには、77名の関係者が参加され、通行人を対象に「オリジナルの臓器提供意思表示カード（啓発グッズとセット）」の配布（1,200部）やアンケート調査、希望者に対して医療生活相談を実施しました。



【県北地区】 那須塩原市・にしなすの運動公園

10月15日（土）に西那須野産業文化祭の会場において、キャンペーンを実施しました。恒例のお祭りを楽しみに訪れた多くの方々がブースに立ち寄ってくださり、アンケート調査にも協力的で、より多くの方々に啓発活動を行うことが出来ました。

なお、3日間総勢148名のキャンペーンスタッフにお手伝いをいただき、3会場において、臓器提供意思表示カードを約3,700枚配付することができました。これらの活動を通じて、移植医療に対する理解が深まったことと思います。



「宇都宮タワーのライトアップ」「懸垂幕の掲示」「とちまるくん人形への飾りつけ」

10月の臓器移植普及推進月間に併せて、移植医療を待つ患者さんに希望の光を届けるとともに、県民が臓器移植について考えるきっかけとなることを願って、県都のシンボルであります宇都宮タワーを臓器移植のシンボルカラーであるグリーン色でライトアップをしました。

また、臓器移植普及推進月間を広く周知するため、県庁東館に懸垂幕を掲示したほか、県庁正面玄関のとちまるくん人形に推進月間をアピールするための飾りつけを実施しました。



命の学習会

命の学習会講師派遣事業は、小学校・中学校・高等学校などの児童・生徒に臓器移植医療を通じて、命の尊さや大切さを理解してもらうため、平成20年度から実施しております。今年度は県立宇都宮東高等学校附属中学校、塩谷町立大宮小学校、大田原市立金田北中学校、小山市立美田中学校、白鷗大学足利中学校の5校で実施いたしました。2月には、県立小山城南高等学校、鹿沼市立南押原小学校で開催を予定しています。

○県立宇都宮東高等学校附属中学校(3年生 105名)

臓器移植の概要と、法改正に至った背景について学んだ後、県内の腎臓同時移植経験者の方から移植に至った経緯などについてお話いただきました。終了後のアンケートでは、「経験者の話を聞いて、移植を受けるということは想像を超える大変さがわかった。」「生きていることはあたりまえじゃない、ということが一番大きく、大切なことだと思った。」などの感想がありました。



○塩谷町立大宮小学校(5年生 26名)

臓器移植に関するニュースや、移植を受けた方のインタビューを通して、日本の臓器移植の現状や問題点、移植を受けた方の気持ちについて学び、臓器移植を通して「命の重み」を知ってもらいました。また、自分たちが安全に学校生活を送ることができるのは、家族や学校、地域の方々など、いろいろな人に支えられていることに気づいてもらいました。

○大田原市立金田北中学校(3年生 81名)

臓器移植の概要と栃木県の臓器移植の実際から、日本における臓器移植の現状と課題について学びました。また、実際の臓器提供のケースから、意思表示の意義についてそれぞれ考え、意見交換をしました。

○小山市立美田中学校(1・2・3年生 114名)

日本の臓器移植の現状を学ぶとともに、子どもの臓器提供を決めた家族の気持ちや、移植を受けた方の気持ちを知ることで、命をつなぐ、ということについて考えてもらいました。「臓器移植は命のリレーだということが実感でした。」「『怖い』という感情よりも『人の命を救えるって何て素晴らしいんだろう』という感情の方が大きくなった。」などの感想がありました。

○白鷗大学足利中学校(1年生 56名)

移植医療にはどのような職業の人が関わっているのかを中心に、日本の臓器移植の現状を紹介しました。臓器移植には、医師や看護師だけではなく、薬剤師、検査技師、事務職員など病院全体が関わっている事、臓器を安全に搬送するために、消防や警察、航空会社などの協力が必要である事などを話し、臓器移植は、命をつなげるために、多くの人が協力している医療であることを理解してもらいました。

院内移植コーディネーター研修会

臓器移植の推進を図るため、協力の得られる県内の医療機関に栃木県院内移植コーディネーターを設置しております。現在、22施設37名の院内移植コーディネーターの方に委嘱状を交付し、御活躍いただいております。

また、院内移植コーディネーターの資質向上と円滑な臓器提供のために、年3回、研修会を開催しております。

今年度の実施内容等は次のとおりです。

○第34回栃木県院内移植コーディネーター研修会(平成28年7月)

(1)講義『臓器提供時の家族への対応』

講師：(公社)日本臓器移植ネットワーク

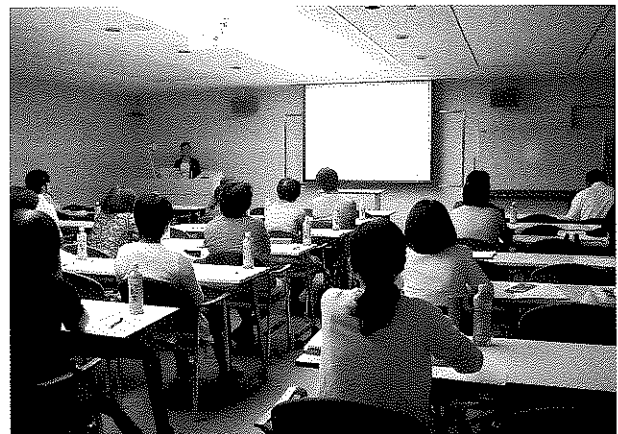
臓器移植コーディネーター 日比野真美子さん

(2)グループワーク

「ケーススタディ～症例から対応を考える～」

講師：済生会宇都宮病院

院内移植コーディネーター 鈴木はるみさん



○栃木県院内移植コーディネーター委嘱状交付式
及び第35回研修会（平成28年10月）

(1)委嘱状交付式（37名に太田理事長より交付）

(2)基調講演「腎臓移植の実際」

講師：自治医科大学腎泌尿器外科学講座

腎臓外科学部門教授 八木澤 隆さん

(3)講演「日本の臓器移植の現状」及び「栃木県の移植事情と栃木県院内移植コーディネーターの業務」

講師：（公財）栃木県臓器移植推進協会

臓器移植コーディネーター 五反田真弓

○第36回栃木県院内移植コーディネーター研修会
（平成29年2月）

(1)講演「日本の移植事情」

講師：（公社）日本臓器移植ネットワーク

臓器移植コーディネーター

(2)研修会

ア 講演「栃木県院内移植コーディネーターの業務について」

講師：（公財）栃木県臓器移植推進協会

臓器移植コーディネーター 五反田真弓

イ 講演「心停止後の臓器提供のながれ」

講師：（公社）日本臓器移植ネットワーク

臓器移植コーディネーター 間 里恵さん

臓器移植推進サポーター任命式

オリジナル臓器提供意思表示カードの作成・配布や普及啓発ポスターの作成・掲示などで多岐にわたり協力をいただいている『リンク栃木ブレックス』との共同企画の一環として、今年度も、ブレックスの有名選手と専属チアリーダーに「栃木県臓器移植推進サポーター」として、幅広く広報普及啓発活動を行っていただいています。

当協会では、去る9月5日(月)に、今年度の「栃木県臓器移植推進サポーター任命式」を行いました。

サポーターに任命したのは、リンク栃木ブレックスのスターティングメンバーで日本代表選手でもある遠藤祐亮選手と専属チアリーダー「ブレクシー」のYURIKOさんの2名で、当日は、遠藤選手とYURIKOさんに当協会の太田照男理事長から任命書と臓器移植のシンボルであるグリーンリボンバッジが手渡されました。

遠藤選手には、今年度からサポーターを引き受けていただいたもので、「臓器移植で救われる命があるので、より多くの臓器移植が行われるよう、広報普及等PRのお手伝いをしたい」旨の抱負が述べられました。

また、ブレクシーのYURIKOさんは、2年連続となることから、「引き続き、臓器提供意思表示について、一人でも多くの方に知っていただけるよう、精一杯PR活動に努めたい」と決意を述べられました。



なお、YURIKOさんには、10月9日(日)に宇都宮市の「オリオン通りイベント広場」で開催した「臓器移植普及推進街頭キャンペーン(県央地区)」の際に、臓器移植推進サポーターとしてのあいさつをいただき、意思表示カードの配布等の普及啓発活動を行っていただき、キャンペーンを盛り上げていただきました。

このサポーター任命式や街頭キャンペーンでの普及啓発活動の様子は、TV・ラジオ・新聞等多くのマスメディアで報道され、臓器移植推進に関して、多くのPR効果を生む結果となりました。

関係団体報告

栃木県腎臓病患者友の会の活動状況について

栃木県腎臓病患者友の会 会長 長山 八洲稔

栃木県腎臓病患者友の会(栃木県腎友会)は、県内在住、又は県内医療施設に通院されている透析患者さん約1,000人で構成する患者会です。すべての患者さんが等しく透析医療を受け、健康的で安心できる生活を送れるよう、本会ではさまざまな活動を行っています。

私たちは、ひとりでも多くの透析患者さんに本会への加入を勧めております。というのも本会に入会されると、県内の透析患者さんと広く交流することで、日々悩んでいたことや疑問に思っていたことが、他の人の経験談等を聞き、知見を広めることで自分なりの答えが見つかり、心豊かな生活を送れるようになるからです。

また昨今は、国民医療費の飛躍的な増大と国の財政上の問題から、「透析医療費の自己負担を増やしてはどうか」という社会的風潮が起きています。しかしながら、透析患者さんの多くが透析導入により、離職や非正規就労への転換等を強いられ、年収200万円未満という厳しい経済環境におかれている現状を広く世間に訴え、公的補助による透析医療制度を維持・継続するよ

う、国や地方公共団体に要望しています。

また本会では、一人でも多くの方が腎移植を受け、つらい透析生活から離脱し、健常者とはほぼ同じ生活ができるように、毎年10月に栃木県臓器移植推進協会が行っている、臓器移植推進街頭キャンペーンに参加させていただき、一般の方々に対する移植医療の普及啓発活動に積極的に協力しております。

以上3つほど活動状況について御報告させていただきましたが、最後に平成28年の栃木県腎友会が実施した主な活動を以下に記載いたします。

- ・2月：栃木県腎友会交流会（医療相談会、生活相談会、意見交換会）の開催
- ・3月：「腎疾患総合対策」の早期確立を要望する請願書署名運動と国会請願活動の実施
- ・5月：一般社団法人全国腎臓病協議会主催の全国大会への会員参加
- ・6月：医療講演会「よりよい生活を送るために」（自治医大病院教授 齋藤修先生）の開催
- ・7月：全腎協関東ブロック会議への参加
- ・10月：臓器移植推進街頭キャンペーン参加
- ・11月：「透析患者のための健康教室」（国際医療福祉大教授 安藤康弘先生）の開催
- ・12月：ユース部意見交換会の開催
- ・隔月：機関誌「栃腎友だより」、年1回：機関誌「あおぞら」の発行等

今後も多くの透析患者さんの心の支えになって参りたいと思いますので、本会に対する皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

大田原市健康長寿都市推進委員会による臓器移植の啓発活動について

大田原市健康長寿都市推進委員会
（事務局 大田原市健康政策課内）

これまで臓器移植に関する啓発事業を行ってまいりました、大田原市臓器移植推進協議会は、平成28年4月から大田原市健康長寿都市推進委員会に統合され、啓発事業を行っているところです。8月には「与一まつり」、11月には「大田原市産業文化祭」に参加して、市内高校生と協力し、ドナーカードや啓発パンフレットの配布などを行いました。イベントに参加し啓発活動を行う際には風船やエコバックを一緒に配布することで、学生や親子連れの方にも興味を持っていただくことができました。まずは一人一人に、「自分は臓器を提供したいかどうか」を考えてもらったり、臓器移植に関して家庭内で少し

でも話題にしてもらったりすることが、臓器移植に対する理解を進めていく第一歩であると思いますので、このような活動を今後も続けていきたいと考えております。また、臓器移植希望者支援事業としまして、組織適合性検査費用及び臓器移植希望更新料の助成を行っており、本年度は現時点で1名の方への助成を行いました。助成を行うことによって、臓器移植を受ける機会が得られるよう支援を行うとともに、登録者の増加を図ることができると考えております。

このような多年にわたる臓器移植の普及啓発推進についての功績が認められ、平成28年10月には、厚生労働大臣より臓器移植推進対策功労者感謝状「厚生労働大臣感謝状」を授与いただきました。これも、多くの関係者の皆様のおかげです。ここに改めて御礼申し上げます。これを契機に臓器提供に関する意思表示促進のため、普及啓発活動により一層の力を入れて取り組んでまいります。皆様には引き続き、ご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

移植関係者

臓器提供～当院の現状～

済生会宇都宮病院 総合内科
主任診療科長 泉 学

脳死での提供、すなわちドナーの手術は、全国で約850病院で可能とされているが、脳死下臓器提供病院として公表されている病院は、全国で384病院と限られている。ネットワークによると、全国の提供数は422症例（2015年12月22日現在）となっており、ほぼ1施設1症例の概算となる。栃木県内では、当院をはじめ、獨協医科大学病院、自治医科大学附属病院、足利赤十字病院、那須赤十字病院、栃木医療センターが可能な病院である。これまで県内で11症例が提供され、自治医科大学附属病院で2件、獨協医科大学附属病院で1件、当院が8症例を提供している。当院では、全身を管理するという事から総合内科が主治医の事が多い。

脳死に至る患者さんは、その原因疾患や家族背景も、至極当然の話であるが、それぞれ全く異なる。その一つ一つに誠心誠意診療に当たることが我々の出来ることであるが、その治療の限界をお伝えする時に、併せて臓器提供の話をする事は、主治医として最も心を砕く瞬間である。御家族の突然の容態の変化で、心中穏やかではない時に、私たちのお話しに耳を傾けて下さり、大きな決断を下して下さった方々に深く感謝している。

当院での提供は、これまで8症例と述べたが、最近、総合内科が主治医にならない初めての症例を経験した。これまでの経験で、当院では臓器提供の提示を御家族に対して行う事は決して特別という事では無くなってきているように思う。ご家族の御同意を頂いてからも、脳死判定から手術に至るまでは、種々の困難があるが、事務、検査、放射線、看護部、さらには脳死判定チームと、役割分担がしっかりと確立され、臓器提供の時には、院内の方向性がひとつになり、主治医は患者さんと家族に集中出来る環境となっている。これまでの実績と経験を誇りとして、これからも実直に命と向き合い、“命のリレー”に携わっていきたいと思っている。

最近の臓器提供

自治医科大学 移植・再生医療センター センター長
腎泌尿器外科学講座 腎臓外科学部門 教授
八木澤 隆

臓器移植は臓器の提供によって成り立つ医療です。これが一般の医療と異なる点です。臓器提供には生体での提供（腎臓や肝臓（一部分））と死後の提供があります。

死後に提供される臓器の斡旋は公益社団法人日本臓器移植ネットワークによって行われます。提供から移植までの診療を滞りなく進めるための業務、移植希望者の登録業務、そして、移植医療の普及・啓発のための活動も行っています。

臓器提供は改正臓器移植法に基づいてなされます。生前に書面で臓器を提供する意思を表示している場合（ドナーカードの保持）に加えて、本人の提供意思が不明な場合でもご家族の承諾があれば臓器を提供できるようになっています。また、15歳未満の方からの脳死下提供も可能です。改正法施行前、脳死下の提供はドナーカード保持者のみに限られており、年間10件程度の提供でした。これに対して2010年7月の改正法施行後には年々提供が増え、2016年には年間64件を数えました。そして、75%の提供がご家族の承諾によるものとなっています。

これに伴い心臓移植、肝臓移植の件数は増加してきています。一方、心停止下の献腎（腎臓のみ心停止下でも提供可能）は減少し、改正法前には年間90-100件であったものが30件程度にまで減ってきています。脳死下での提供は心停止下に比べて腎臓の保存状態は良く、移植予後も良好ですが心停止下提供数の減少によって献腎移植の総数は減少しています。これが現在の献腎の問題点です。2016年には177件の献腎移植が行われましたが、その内、116件が脳死下提供

（肝腎同時移植3件、腓腎同時移植33件を含む）、61件が心停止下提供の移植でした。

様々な側面から脳死下の提供が増えることが今後の移植医療にとって望ましいと言えますが、心停止下の腎臓提供についても継続した啓発活動が求められています。

当科における2016年の移植

獨協医科大学 第二外科 加藤 正人

2016年当科では1件の生体肝移植を施行した。

症例は50歳代の男性。下腿浮腫を認め近医受診したところC型肝炎を指摘された。以後点滴等で経過観察されていた。しかし徐々に肝機能の悪化、腹水、黄疸を認めるようになり、入退院を繰り返すようになった。症状の改善に乏しく非代償性肝硬変の診断となり、治療として肝移植を提案したところ、三女よりドナーの申し出があり、生体肝移植となった。

術後経過は、胆汁うっ滞による遷延する黄疸を認めているが、拒絶反応、重症感染症は認めず、現在は黄疸も改善傾向にある。

また、2015年に施行した、脳死下腓腎同時移植も順調に経過しており、移植後一年半経過した現在も、拒絶反応もなく、透析、インスリンも離脱した状態である。

当科では、これまで40例の生体肝移植を経験してきた。2017年も1月に生体肝移植を予定している。

今後も栃木の移植医療に貢献してゆく所存である。

院内コーディネーターとして

菅間記念病院 看護師長 松本 千速

私の勤務する菅間記念病院は平成26年に50周年を向かえ、翌年にはヘリポート併設の7階建て新棟がオープンし、病床数が280床から319床となりました。また、県北における2次医療救急病院として、年間約2,000件の患者を受け入れております。

当院での私の役割は、透析センターでの看護業務、ME業務のほか、平成19年10月1日より院内コーディネーターとして活動を開始し、今年で9年目になりました。これまで定期的に行なわれる栃木県院内移植コーディネーター研修会への参加のみで、一度も移植に繋がるような実績がありません。

これまでの臓器移植についての疑問として、透析患者の移植希望者が少ないのはなぜなので

しょうか。当院での透析患者130名（入院、外来含む）中、臓器移植希望登録をしているのは2名です。県内でも透析患者5,860人に対して、腎臓移植希望者は195名しかおりません。やはり献腎移植が少ない（半ば諦めている？）からなのでしょうか。

昨年度まで透析センターで勤務しておりましたが、今年度より感染対策専従となり感染専従業務8割、残り2割をコーディネーターの活動にあてることができるようになりました。これからは自分の院内コーディネーターとしての存在をもっとアピールし、臓器移植に関することを理解してもらえよう活動を展開していきたいと思っています。まずは、職員に対して国内や県内の臓器移植事情を知ってもらうための研修を企画したいと思います。そして、もし、医師や病棟看護師などからドナー候補に繋がる情報を得た時は、これまで自身が研修で学んできた事を活かせるような活動をしていきたいと思っています。

院内移植コーディネーターとして

上都賀総合病院 大橋 文子

当院は県西地区にある唯一の総合病院であり、平成26年10月に新病院が完成し、ヘリポートの設備も整いました。鹿沼市内で臓器提供を行う病院に登録されているのは当院のみです。私自身、移植コーディネーターとしての役割が果たせるかとても不安でしたが、あっという間に10年が経過し、2年前からは2名となり色々と相談しながら活動できるようになり、とても感謝しています。

院内移植コーディネーターの役割は、医療従事者に対し臓器移植への理解を促進するための普及・啓発活動を行い、院内の体制を整えていくことです。当院においては、患者入院時の基本情報に「ドナーカードの有無」を確認しています。カードの有無に関係なく、入院後に臓器提供について話を聞きたいと申し出る患者さんもおり、その場合、患者さんや家族と時間を合わせ面談室又は病室で臓器提供についての思いを聞き、私たちからは当院の役割や臓器提供時の条件などをお話しする機会が何度かありました。また、臓器提供には至りませんでした。眼球的提供を希望する患者さんの対応は何度か経験することが出来ました。その都度、県コーディネーターの五反田さんに相談することができ、とても心強く思いました。2010年には法律も整備され、日本臓器移植ネットワークも24時間体制で対応していますが、国民の移植に対する思いは抵抗があるのかもしれませんが、年3回行われる院内移植コーディネーター研修会は、

新しい情報を入手できる貴重な研修会であると強く感じています。そこで配布される「サンクスレター」を読むと移植を受け新たな生活が出来るようになった患者さんたちの感謝の気持ちで胸が熱くなります。医療技術が発達した今、移植を待っている患者さんを思うと少しでも協力しなければと思います。その第一段階として、新入職員へのオリエンテーション時に心停止下の臓器提供病院であることを認識してもらえるような取り組みをしていきたいと思っています。

特別寄稿

できることから、少しずつ

株式会社エフエム栃木 代表取締役社長

関根 房三

エフエム栃木（RADIO BERRY）は、平成6年4月の開局以来、栃木県域のFMラジオ局として、常に県民の皆様と共に歩み続けてまいりました。「地域のFMラジオ局」として、県内の新鮮な情報や新しい音楽など「とちぎの旬（しゅん）な情報」をふんだんに盛り込んだ番組をお届けするのはもちろんのこと、併せて、県民の皆様や県内企業、団体の皆様の御支援、御協力をいただきながら、地域貢献の活動にも積極的に努めております。

その一つとして、数年前から「防災ハンドブック」を毎年発行しています。平成23年3月の東日本大震災、平成26年9月の関東・東北豪雨など、本県でも大きな被害がありました。災害が発生したときにどう行動すれば良いのか、何を持ち出せば良いのか、備えておくべき物は何か、緊急時の連絡先はどこかなど、普段から御家族の間で話し合っていたきたいとの思いから、小学生や中学生の皆さんにお配りさせていただいています。何よりも大切な命を守るため、ぜひ防災ハンドブックを活用していただきたいと思います。

また、平成27年から市町と連携した災害時の緊急告知ラジオ放送にも取り組んでいます。災害時には、正確で、かつ必要とされる情報を一刻も早くお届けしていきます。

そのほか、近年増加している特殊詐欺の減少・撲滅を目指す「特殊詐欺キャンペーン」や、全国の38のエフエムラジオ局と共に地球環境の保護と保全を全世界に呼びかけていく「クリーンキャンペーン」など、FMラジオ局であるRADIO BERRYの特徴を活かした、生命や財産、環境を守るための様々な活動を展開しています。

今後引き続き、RADIO BERRYでは、皆様

の御支援をいただきながら、できることから少しずつ、そして着実に地域への貢献に取り組んでまいります。併せて、尊い生命に直接かかわる栃木県臓器移植推進協会の意義深い御活動に対しまして、地域のFMラジオ局として、できる限りの御協力をしてまいりたいと考えております。

各種イベントに参加して

ライオンズクラブ国際協会333B地区
アラート・会則・献眼・献血委員長 丸山昇平

県内48あるライオンズクラブは、前年に引き続き今年も（公財）栃木県臓器移植推進協会が主催する臓器移植推進街頭キャンペーンに後援という形で77名が参加し、臓器移植の理解促進に向けた運動を行いました。

10月1日（土）はイオンモール佐野新都市で、10月9日（日）は宇都宮オリオン通りイベント広場で、10月15日（土）はにしなすの運動公園において、臓器移植の理解を求めて臓器移植意思表示カード付きリーフレットやグッズの配付、併せてアンケート調査を行いました。アンケート調査は大多数の人たちが快く答えてくれ、多くの人は自分の臓器移植に賛同するが、家族の反対があり、なかなか難しいのという声があったことから、家族の理解を得ることが、今後の課題の最大のポイントではないかと思いました。

現在、県内の各クラブには、いろいろなイベントを行う際には、献眼、献血とともに臓器移植に関するキャンペーンを行うようお願いをしております。

10月16日（日）には、ライオンズクラブ100周年を記念し、献眼と併せて献血事業への更なる意識改革を狙い、栃木県護国神社会館に於いて、アイバンクセミナーを開催いたしました。

当日は、日本アイバンクの泉厚彦事務局長、栃木アイバンクの小倉康延理事長、独協医科大学の千葉桂三准教授、角膜移植を受けられた上原晋氏、そして栃木県赤十字血液センターの阿久津美百生所長をお迎えし、最初にアイバンクのお二人の挨拶のあと、千葉先生より色々な異なる手術の方法をくわしくお話をいただき、その後、実際に手術を受けられた上原氏の体験談をお聞きしましたが、皆さん熱心に聞いておりました。その後、栃木県赤十字血液センターの阿久津所長より、県内の血液の需要は多く、県外からも補っているお話をお聞きし、改めて血液事業の大切さを認識いたしました。

今後においても、献眼、献血をはじめ臓器移植に関して、いろいろな場面において啓発活動をしていく考えです。

地域に根ざすプロチームとしてできること

リンク栃木ブレックス 広報 小野 順一

私たちリンク栃木ブレックスが栃木県臓器移植推進協会様との臓器移植の普及啓発の取り組みをスタートさせて7年目となりました。

臓器移植推進サポーターに任命された選手をモチーフにしたポスターを県内各所で掲示していただき、そしてホームゲーム会場ではブレックスのマスコットキャラクターをモチーフにしたオリジナルの意思表示カードを来場者に配布するなどし、広報活動に努めております。

現在、日本のバスケットボール界に大きな変革が訪れています。

2016年9月に新プロリーグ“Bリーグ”がスタート。ブレックスは、B1～B3と3つに分かれたカテゴリーの中で1部リーグであるB1に所属し、9月から5月まで全国の強豪チームと激しい戦いを繰り広げています。

統一リーグのスタートでメディアでの露出の増加、チームおよび選手たちの認知度が向上しておりブレックスのホームゲームでの入場者数は、昨シーズンまでよりも約600名増加し現在約3200名。

試合会場でのPRもさらに高い効果を上げられ、より幅広く県民の皆様へ臓器移植について知っていただき、考えていただく事ができているのではないかと考えております。

ブレックスが勝利し注目を集めること、そして栃木の皆様により愛されるチームになっていくことで臓器移植の普及の一端を担えればと考えております。

何よりも、このような取り組みをさせていただく事で選手、チアリーダー、スタッフの皆が『考えるきっかけ』を与えていただいている事に感謝しております。

栃木に根ざし活動しているプロスポーツチームとして、ブレックスだからこそできる地域貢献活動の一つとして、今後もしっかりと広報活動に取り組ませていただきたいと思います。

Bリーグ初代王者を目指すリンク栃木ブレックスの応援もぜひ、お願いいたします。

リンク栃木ブレックス
遠藤 祐亮は、
意思表示をしています。
私はこのカードを大切に持っています。
私の意思はこのカードにあります。
誰かから奪われることはありません。
誰かから奪われることがないことを
あなたも思ってください。
あなたも思ってください。
YES, NOT
NO, NOT
公益財団法人 栃木県臓器移植推進協会
JOI 日本臓器移植ネットワーク 080-0120-75-1089

25年の軌跡

日光市 福田 幸子

私が献腎移植を受けて、昨年5月で25年が過ぎました。今振り返っても夢のような信じられない気持ちです。

学業も終わって就職して間もなく、風邪だと思って病院に行ったら、『慢性腎不全』すぐに透析導入となりました。母からの生体腎移植を進めていましたが、父の急死により献腎の登録をしました。一生透析を続けると思っていました。毎日の食事制限、悪天候や体調の悪い時の通院の不安、何度も弱音を吐きそうになりました。そんな時、病院のスタッフや同じ悩みを持つ透析の仲間の励ましは私の一番の支えでした。

透析導入から10年、突然移植手術となりました。入院中、お腹の傷の痛みを感じながら、腎臓への愛おしさと移植できた責任を感じていました。何としてもこの腎臓を守りたいと思いました。毎日の体調管理には気をつけています。免疫抑制剤の服用、疲れは翌日まで残さない、外出から帰ったらのうがいと手洗いは25年経った今でも続けています。

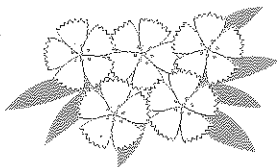
私がこうして元気になれたのは、提供者、また提供者のご家族がいたからです。本当に心から感謝しています。でも患者会の先輩、各臓器移植推進の方々の活動があったから、今の私がいると思っています。

私が移植をした時、透析の仲間たちが『よかったね。自分も何年待つか分からないけど、いつか移植出来る希望が持てたよ。がんばるよ。』と言ってくれたことがどんなにかうれしく心に残っています。

今までたくさんの人に支えられ生きてきた私ですが、現在は小・中学校に行き、臓器移植体験の話をする機会があります。移植でしか助からない病気があること、病気になると生活のリズムが変わり自分もつらいけれど、家族みんなが大変になること、普段は気付かないけれど自分が思った時に、何の制約も無く自由に行動できることはすばらしいこと、だから、一日一日を精一杯勉強にスポーツに励んでくださいと、お話しています。

25年の間には、白内障、C型肝炎、がんの手術など、生身の身体を持っていれはずっと健康でいることは難しいことです。病気になってはじめて、健康のありがたみもわかるものだと思います。

もう後悔はしたくない。私は、いただいた腎臓『いのちの贈りもの』と一緒にずっと生きていきます。



栃木県慢性腎不全治療の概要

協会理事 目黒輝雄

協会では、前身の腎不全対策協会発足時から20有余年にわたり、毎年、栃木県内の人工透析医療実態調査を行い、透析患者数の推移などについてデータ化し、腎不全治療に役立てていただくため、公表しております。これも透析医療機関の皆様方のお陰でありまして、改めてお礼を申し上げます。

平成27年末における人工透析医療実態調査の主な結果は次のとおりです。

透析患者は、患者数推移のグラフでもおわかりのように増加の一途ですが、その伸びは明らかに緩やかになってきました。全透析患者数の原疾患別の割合では、慢性糸球体腎炎が31.4%（前年比0.3ポイント減少）、糖尿病性腎症が43.4%（前年比3.2ポイント増加）で、糖尿病の割合は年々増加の一途です。次いで、腎硬化症、のう胞腎の順となっております。

1. 人工透析施設の動向

	平成27年	平成26年	平成25年
透析施設数	79	76	74
同時透析能力	2,569	2,459	2,401
患者収容能力(人)	7,490	7,262	7,273
CAPD実施施設数	12	10	13
夜間透析実施施設数	31	29	34

2. 透析患者の動向

	平成27年	平成26年	平成25年
(1)透析患者総数(人)	6,064	5,867	5,800
入院患者数	437	415	316
透析方法			
①血液透析	5,973	5,804	5,729
（うちHDF）	365	289	172
（うち家庭透析）	1	1	2
②腹膜透析	80	56	66
③血液・腹膜透析併用	11	7	5
(2)透析導入・死亡(人)			
年間透析導入患者数	752	713	710
年間死亡患者数	588	623	606

3. 腎臓移植の現況

	平成27年	平成26年	平成25年
(1)年間腎臓移植患者数	36	32	30
献腎移植	2	6	5
生体腎移植	34	26	25
(2)腎臓移植者総数(累計)	495	459	427
献腎移植	82	80	74
(3)臓器提供者数(年間)	0	3	1
献腎(心停止後腎臓提供)	0	1	0
脳死下臓器提供	0	2	1
臓器提供者数(累計)	21	21	18

【参考】血液透析患者の週当たりの透析回数と時間（CAPD、HDの併用は除く。）

週の回数	時間	患者数
4	5.0	1
4	4.0	5
4	3.0	1
3	8.0	18
3	7.0	1
3	6.0	13
3	5.5	12
3	5.0	254
3	4.5	255
3	4.0	3,924
3	3.5	367
3	3.0	802
3	2.0	2
2	7.0	2
2	5.0	7
2	4.5	3
2	4.0	110
2	3.5	11
2	3.0	81
1	4.0	8
1	3.5	1
1	3.0	10

とちぎネットアンケート（臓器提供に対する意識調査）等結果

○とちぎネットアンケート（臓器提供に対する意識調査）結果

栃木県では、県民の意識の傾向と県民のニーズを把握し県政に反映させることを目的に、今回、臓器提供に対する意識等を把握するために、とちぎネットアンケート協力者を対象にアンケート調査を行いました。

1 回収結果 協力者390名中215名が回答
回収率55.1%

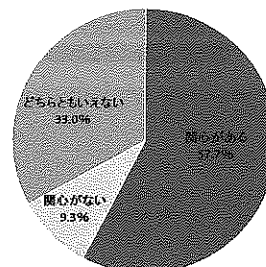
2 質問項目 10項目のうち、6項目について掲載いたしますので、詳細については、ホームページ（栃木県／平成28年度第6回とちぎネットアンケート調査結果）で公表されておりますので、ご確認ください。

- ①あなたは、臓器提供に関心がありますか？
- ②あなたは、これまでに、ご家族や親しい方と臓器提供について話をしたことがありますか？
- ③あなたは、ご自身の臓器提供に関して意思表示をする方法があることを知っていますか？
- ④あなたが、ご自身の臓器提供に関する意思をカード等やインターネット上で記入又は登録していますか？
- ⑤あなたが臓器提供の意思を記入又は登録しているものは何ですか？
- ⑥あなたが、カード等やインターネット上で記入又は

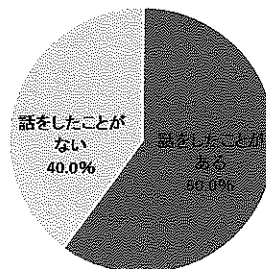
登録した臓器提供の意思は次のいずれですか？

- ア 脳死後及び心臓停止後
- イ 心臓が停止した後
- ウ 臓器を提供しない

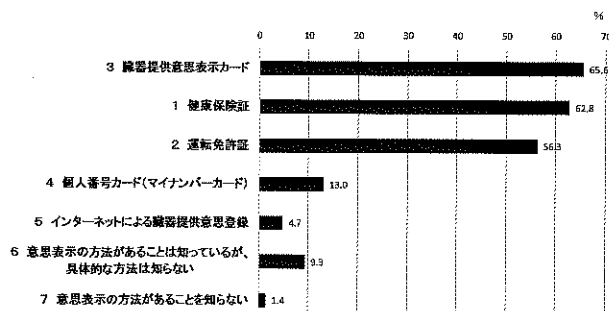
【問1】あなたは、臓器提供に関心がありますか。
(n=215)



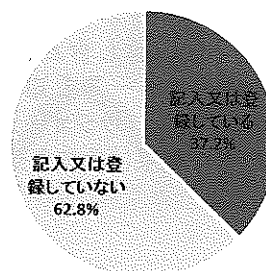
【問2】あなたは、これまでに、ご家族や親しい方と臓器提供について話をしたことがありますか。(n=215)



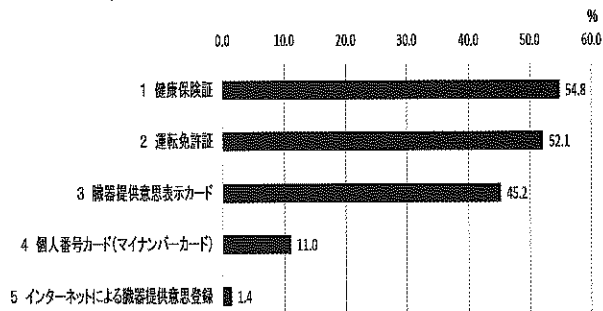
【問3】あなたは、ご自身の臓器提供に関して意思表示をする方法があることを知っていますか。知っている方は、知っている方法を次の中からいくつでも選んでください。(n=215)



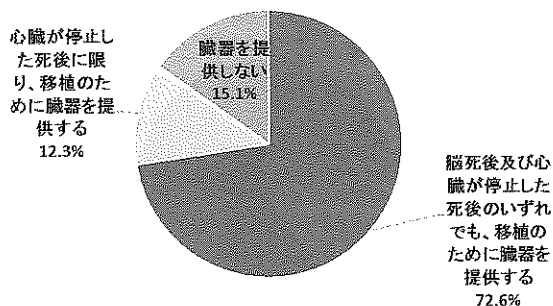
【問4】【問3】で1から5を選んだ方にお聞きします。あなたが、ご自身の臓器提供に関する意思を、カード等やインターネット上で記入又は登録していますか。(n=196)



【問5】【問4】で「記入又は登録している」を選んだ方にお聞きします。あなたが臓器提供の意思を記入又は登録しているものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。(n=73)



【問6】【問4】で「記入又は登録している」を選んだ方にお聞きします。あなたが、カード等やインターネット上で記入又は登録した臓器提供の意思は次のいずれですか。(n=73)



○街頭キャンペーンにおけるアンケート調査(意識調査)

意思表示カード等についてのアンケートを、キャンペーンスタッフの皆様の協力を得て実施しました。

1 実施場所

10月9日(日) オリオン通りイベント広場周辺
(宇都宮市)

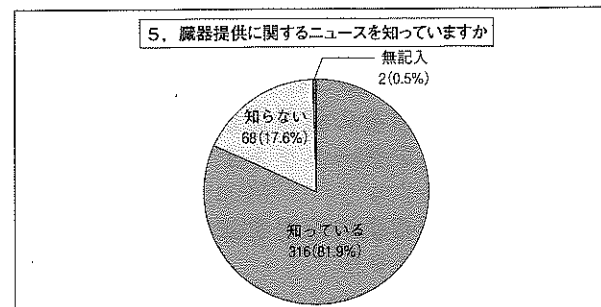
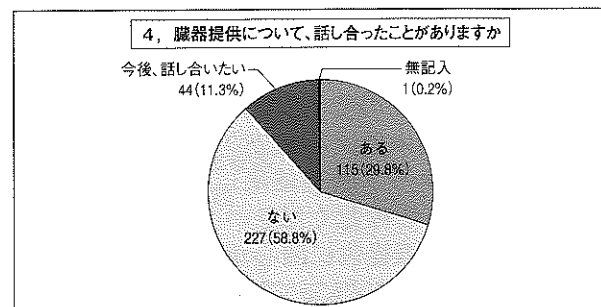
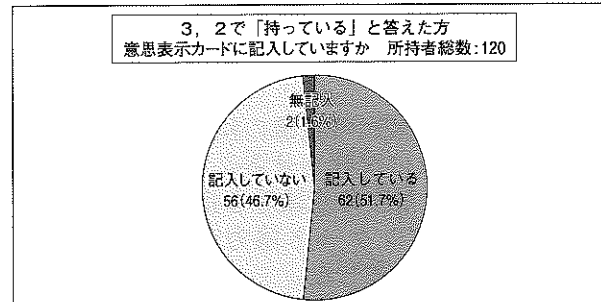
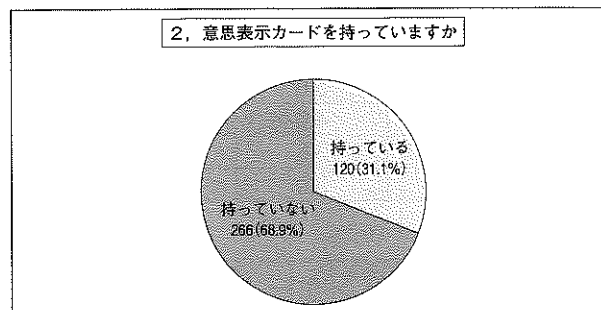
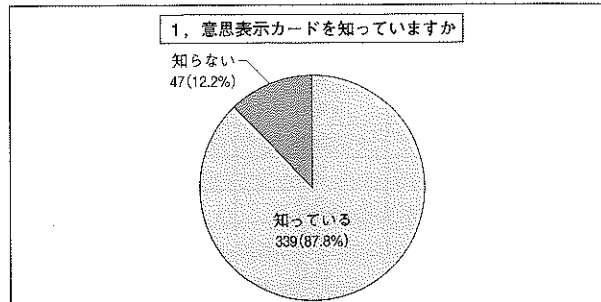
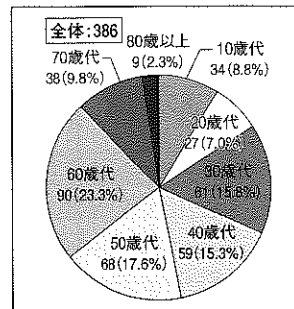
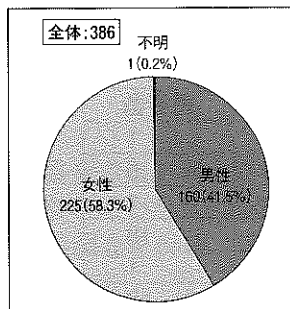
10月15日(土) にしなすの運動公園(那須塩原市)

2 回答総数

386名(男性160名、女性225名、未記入1名)

3 質問項目

- 「臓器提供意思表示カード」を知っていますか?
 - 「臓器提供意思表示カード」を持っていますか?
 - 「臓器提供意思表示カード」に自分の意思を記入していますか?
 - 臓器提供について、家族や大切な人と話し合ったことがありますか?
(ある ない 今後、話し合おうと思う)
 - 臓器移植に関するニュースを知っていますか
(知っている場合、TV ラジオ 新聞 その他)
- の5項目で、その主な結果は次のような状況でした。



あなたと大切な人の腎臓を守ろう。
CKDは2人に1人がかかる国民病なのに認知率わずか7.5%

CKD (Chronic Kidney Disease; 慢性腎臓病) は、我が国の推定患者数が1300万人超のみならず、生涯罹患リスクも50%とがんと同じ高率です。ところが9割以上の国民はこの病気の存在すら知りません。私たちRAV-CKD (CKD啓発動画研究会) はCKD認知率向上を目指して、2010年秋より啓発動画の製作・公開を続けております。2015年末までの5年間の動画の総再生回数が10万回で、概ね年2万回のペースでの増加でしたが、2016年は一年間にそれぞれ趣向を変えた17本もの新作動画を公開し、年間再生回数も5万回と急増しました。昨今情報伝達ツールとして、3大メディア (テレビ、ラジオ、新聞) の役割の縮小と好対照にYou Tubeに代表されるインターネット動画が目覚ましく台頭しています。CKD啓発にもインターネット動画は使用されていますが、動画数・再生回数からみてRAV-CKDは国内外で突出しています。

昨年は再生回数のみならず、啓発動画としての新しい試みを3つ手がけた重要な年でした: (1)飲食店とのコラボレーションで、一般公募のスロージョギングイベントを行い、その様子を動画で公開、(2)ドイツ語版の歌曲 (フュアディッヒ〜あなたへ) 動画を制作し、ドイツ語圏への拡散に着手、(3)看護学校で「CKD啓発動画を作ろう」という体験授業を行い、5つの動画を制作〜公開 (図1)。いずれも新しい対象にアピールすることを目指しており、今後の継続で啓発効果の拡大を期待しています。

皆様もぜひRAV-CKDホームページ (<http://www.ckd-ckd.jp/>) で新作動画をお楽しみいただき、CKDの認知度向上にご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

2017年1月 RAV-CKD代表幹事 安藤 康宏 (国際医療福祉大学予防医学センター・腎臓内科)

図 看護学生制作の傑作CKD啓発動画5本: <http://www.ckd-ckd.jp/topics/topics.php?id=189>



心霊スポットで見つけたものは...



【警告!】食べまくりCKD



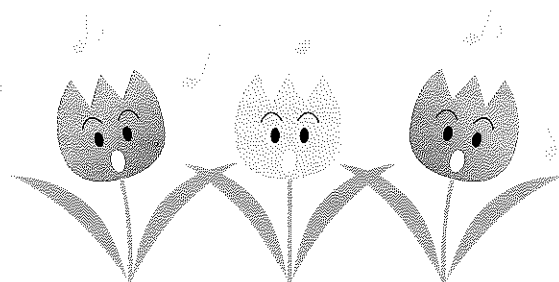
笑わせえるすまん.CKD編



ちょっと〇〇なCKD

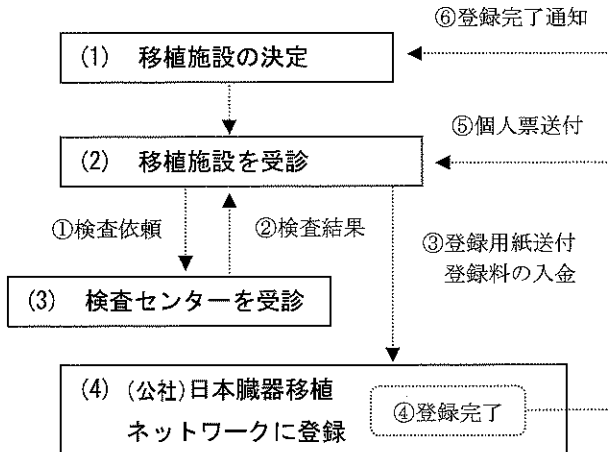


君の名はCKD



献腎移植希望の登録について

献腎移植を希望する場合は、(公社)日本臓器移植ネットワークに登録しなければなりません。栃木県での手続きは次のとおりとなります。



(1)移植施設の決定 (栃木県の場合)

腎臓 自治医科大学附属病院／獨協医科大学病院
 脾臓 (脾腎同時移植の可能) 獨協医科大学病院
 ※担当医師とよく相談し、紹介状を書いてもらいます。なお、上記病院の電話番号は次のとおりです。自治医科大学附属病院 (Tel0285-44-2111)、獨協医科大学病院 (Tel0282-86-1111)

(2)移植施設を受診

健康保険証、身体障害者手帳、紹介状を持参し受診します。

(3)検査センターを受診 (栃木県の場合)

- ◆自治医科大学附属病院 輸血・細胞移植部
- ◆獨協医科大学病院 臨床検査部

組織適合検査 (採血のみ) を行います。検査費用は施設によって異なりますが、4万円前後です。

なお、検査費用の一部助成制度がありますので、(公財)栃木県臓器移植推進協会 (Tel028-623-3086) に確認してください。

(4) (公社)日本臓器移植ネットワークに登録

登録料は3万円です。次の年からは更新料として毎年5千円かかります。

なお、登録料及び更新料は医療費控除の対象となります。また、生活保護世帯の方や生活保護世帯以外の生活困窮者の方は費用が減免になります。

詳しくは、(公社)日本臓器移植ネットワークのホームページ (<http://www.jotnw.or.jp>) でご確認ください。

(5)下記の臓器も栃木県の医療機関で移植を受けることができます。

肺 獨協医科大学病院
 肝臓 (18歳未満限定) 自治医科大学附属病院
 小腸 自治医科大学附属病院

(6)臓器提供、臓器移植の現状

平成28年 (1~12月) 中に、日本で行われた臓器提供は96件あり、うち脳死での提供が64件、心停止後の提供が32件ありました。栃木県で行われました5件の脳死での提供も含まれています。これらの提供により、338名の方が移植を受けることができました。

移植者の現状は次のとおりです。

	平均待機期間 (移植希望登録日から移植日までの期間)	移植後5年後の生存率
心臓・心肺同時移植	約2年11か月	92.3%
肺・心肺同時移植	約2年5か月	72.8%
肝臓・肝腎同時移植	約1年4か月	80.4%
脾臓・脾腎同時移植	約3年8か月	94.1%
小腸移植	約1年	69.2%
腎臓移植	約14年7か月	90.6%

〔日本臓器移植ネットワークNews Letter 2016〕より

透析医療機関のみなさまへ

透析患者さんの不測の事態に備え、「緊急透析患者カード」を配布しています。

下記のようなカードですが、ご希望の透析医療機関は、「公益財団法人栃木県臓器移植推進協会」までお申し出ください。

オモテ

緊急	透析患者カード
私は腎不全のため透析治療を受けています。もし、気を失ったり、倒れていた時は、最寄りの医療機関に運ぶとともに、すぐに下記の透析医療機関に通報して下さい。	
病・医院名	
電話番号	
住所	

ウラ

緊急	氏名	血液型 ()
生年月日	M T S H 年 月 日生	
住所		
自宅	電話	
非常時連絡	電話	
公益財団法人 栃木県臓器移植推進協会 電話 028-623-3086		

事務局通信

一昨年度から「臓器移植普及推進のための募金運動」を展開しており、今年度も多くの機関から御支援をいただきました。

本誌上をお借りして、厚く御礼申し上げます。

●医療機関（募金収納順）

医療法人宇都宮健康クリニック	医療法人桜友会玉川耳鼻咽喉科	医療法人裕昂会あんど子どもクリニック
医療法人水沼外科医院	福田子どもクリニック	大場医院
旭眼科内科クリニック	なかたクリニック	佐野医院
医療法人洋和会水沼医院	荒木医院	医療法人社団慶生会目黒医院
青柳耳鼻咽喉科医院	中田ウィメンズ&キッズクリニック	岡田医院
吉原医院	医療法人加藤クリニック	滝童内医院
地方独立行政法人栃木県立がんセンター	医療法人啓慈会鈴木整形外科	医療法人飯野医院
鬼怒ヶ丘クリニック	大橋内科クリニック	塩谷医院
医療法人東洞会筑波医院	医療法人佐藤クリニック	樹レディースクリニック
医療法人岡田子どもクリニック	神野医院	医療法人平和会足利腎クリニック
久保川皮膚科医院	医療法人徳真会真岡病院	宝寿苑
小野内科循環器科医院	医療法人順整会福島整形外科病院	医療法人社団開成会
医療法人青木眼科医院	医療法人芳賀耳鼻咽喉科医院	和久医院
小森谷内科医院	栃木リウマチ科クリニック	医療法人康仁会いなば内科クリニック
橋本医院	医療法人藤沼医院	東宇都宮クリニック
池永腎内科クリニック	長谷川医院	坪水医院
医療法人都賀中央医院	杏林堂藤田医院	医療法人社団松島眼科医院
阿部内科	医療法人社団医心会中川内科クリニック	医療法人渡部医院
医療法人社団阿久津医院	医療法人慈仁会飯塚医院	小林医院
伊藤内科医院	岡医院	社会福祉法人紫雲会
医療法人緑水会川野クリニック	公益社団法人栃木県柔道整復師会	医療法人小山すぎの木クリニック
医療法人社団緑会佐藤病院	後藤医院	山崎小児科医院
医療法人開生会奥田クリニック	那須赤十字病院	こひらメディカルクリニック
青い鳥子どもクリニック	医療法人社団双愛会足尾双愛病院	社会福祉法人恵愛会
きぬの里クリニック	医療法人昌慶会	竹村内科腎クリニック
医療法人社団大友会みやの杜クリニック	済生会宇都宮病院	医療法人社団二樹会村山医院
北村クリニック	とちぎ診療所	医療法人社団志幸会木村内科医院
土谷医院	医療法人社団徳仁会中野病院	医療法人松本内科医院
柏木耳鼻咽喉科医院	医療法人貴和会大野内科医院	医療法人とちの木会栃木産科婦人科医院
医療法人さいとう小児科	手塚内科	はらクリニック
今市病院	小林内科外科医院	社会福祉法人豊郷
かるべ皮膚科小児科医院	公益財団法人栃木県保健衛生事業団	医療法人修英会中川医院
友井内科クリニック	足利赤十字病院	小野整形外科
さいとう医院	大栗内科	おおはしアイクリニック
医療法人社団廣和会両毛クリニック	医療法人高橋医院	獨協医科大学日光医療センター
医療法人新島内科クリニック	自治医科大学附属病院	さとう耳鼻咽喉科クリニック
医療法人社団福田会福田記念病院	島村泰史	医療法人信和会石川医院

●県庁各課室及び出先機関（募金収納順）

監理課親睦会	業務課	文化財課親睦会	企業局電気課親睦会
自然環境課	情報システム課	那須教育事務所	工業振興課親交会
人事委員会事務局親睦会	真岡県税事務所	都市整備課	わかくさ特別支援学校
県民文化課	今市発電管理事務所親睦会	総合政策課国体準備室	保健福祉課
危機管理課	教育委員会事務局健康福利課	真岡土木事務所職員有志	医療政策課

警務部総務課
砂防水資源課
国際課
会計管理課
県南家畜保健衛生所
建築課親睦会
経済流通課
企業局水道課親睦会
芳賀教育事務所
議会事務局
こども政策課親睦会
高齢対策課親睦会
那須農業振興事務所
宇都宮県税事務所
広報課はるかぜ会
経営支援課親交会
下都賀農業振興事務所
くらし安全安心課親睦会
環境森林政策課
経営技術課親睦会
県西環境森林事務所
烏山健康福祉センター
足利労政事務所
行政改革推進室
農業環境指導センター
下都賀教育事務所
地球温暖化対策課
県東環境森林事務所
農業試験場原種農場
河川課
職員総務課親睦会
下水道管理事務所親睦会

用地課
生活衛生課
青少年男女参画課
公園事務所
教育委員会事務局総務課七重会
生産振興課
文書学事課
栃木土木事務所親睦会
水産試験場
小山労政事務所
人事課睦会
監査委員事務局親交会
森林整備課
県西健康福祉センター
県央家畜保健衛生所
税務課むつみ会
県北児童相談所
都市計画課
岡本特別支援学校
統計課
計量検定所
県東健康福祉センター
県農業大学校親睦会
河内農業振興事務所
産業技術センター
富屋特別支援学校
安足農業振興事務所
総合スポーツゾーン整備室
黒磯高等学校
今市発電管理事務所板室管理支所
地域振興課親交会
教育委員会事務局生涯学習課

畜産振興課
宇都宮青葉高等学園
企業局経営企画課
技術管理課
県北環境森林事務所
矢板土木事務所親睦会
産業技術支援センター
国保医療課
塩谷南那須教育事務所
安足教育事務所
今市健康福祉センター親睦会
健康増進課
道路整備課
塩谷南那須農業振興事務所
教育委員会事務局スポーツ振興課
県北健康福祉センター
那須広域ダム管理支所
自動車事務所佐野支所
馬頭処分場整備室親睦会
中央児童相談所
栃木特別支援学校
鹿沼県税事務所親和会
林業センター
農地整備課親睦会
労働委員会事務局むつみ会
県南環境森林事務所
矢板森林管理事務所
大田原県税事務所親睦会
矢板健康福祉センター

県立図書館友愛会
住宅課親睦会
県立美術館
日光土木事務所
障害福祉課親睦会
労働政策課仲良会
教育委員会事務局教職員課
農政課
林業振興課
精神保健福祉センター
安足健康福祉センター
教育委員会事務局施設課
安足土木事務所
宇都宮土木事務所
農業試験場いちご研究所
企業局地域整備課
保健環境センター
県北家畜保健衛生所
矢板県税事務所
安足県税事務所
那須学園
廃棄物対策課
総合政策課親睦会
管財課親睦会
芳賀農業振興事務所
教育委員会事務局学校教育課
県南児童相談所
農業試験場
動物愛護指導センター

●募金機関：253機関

●募金総額：1,341,029円（平成29年1月末日現在）

編集後記

○協会だより第27号（平成28年度版）を発刊し、皆様にお届けすることになりました。これも偏に、お忙しい中ご寄稿をいただきました関係者の皆様のお陰であり、心から御礼を申し上げます。

○改正臓器移植法が施行されてから、この6年間に県内の病院において11件の臓器提供が行われましたが、今なお現在、県内には190名の方が臓器提供を希望されており、一層の啓発活動が必要な状況にあります。

○今期、関係各位のお力添えにより、臓器移植普及推進街頭キャンペーンをはじめ多くの普及啓発活動を多面的に展開することが出来ました。この場をお借りして心から厚く御礼申し上げます。

○これからも臓器移植普及推進のため、微力ながら精一杯、努めさせていただきますので、皆様のより一層の御理解、御支援とご協力をお願いいたします。（N生）